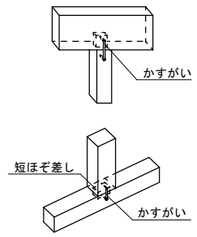
柱の接合補強
（告示１４６０号）

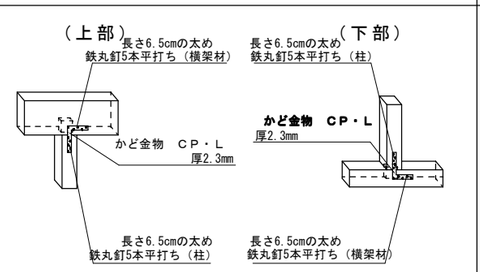
使用する壁、筋かいの種類	壁、筋かいの種類 ＼ 柱の位置	平屋または最上階				その他の部分（２階建ての１階部分）		
		出隅の柱		その他の軸組端部の柱		上階＝出隅の柱 当該階＝出隅の柱	上階＝出隅の柱 当該階≠出隅の柱	上階≠出隅の柱 当該階≠出隅の柱
	木ずりその他これに類するものを柱及び間柱の片面または両面に打ち付けた壁	短ほぞ差し い		短ほぞ差し い		短ほぞ差し い	短ほぞ差し い	短ほぞ差し い
	厚さ1.5cm以上×幅9cm以上の木材、または径9mm以上の鉄筋の筋かい	長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ		短ほぞ差し い		長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ	短ほぞ差し い	短ほぞ差し い
	厚さ3cm以上×幅9cm以上の木材の筋かい	筋かい下部が取り付く柱の場合 長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ	左以外の柱の場合 羽子板ボルト 短ざく金物 （ｽｸﾘｭｰ釘なし） に	筋かい下部が取り付く柱の場合 短ほぞ差し い	左以外の柱の場合 長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ	羽子板ボルト 短ざく金物 （ｽｸﾘｭｰ釘なし） に	長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ	短ほぞ差し い
	厚さ1.5cm以上×幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛または9mm以上の鉄筋の筋かいをたすき掛け	羽子板ボルト 短ざく金物 （スクリュー釘なし） に		長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ		1.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 と	Ｔ字金物 Ｖ字金物 は	長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ
	厚さ4.5cm以上の幅9cm以上の木材の筋かい	筋かい下部が取り付く柱の場合 Ｔ字金物 Ｖ字金物 は	左以外の柱の場合 羽子板ボルト 短ざく金物 ほ	長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ		1.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 と	Ｔ字金物 Ｖ字金物 は	長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ
●	構造用合板を打ち付けた壁	羽子板ボルト・短ざく金物 ほ		長ほぞ差し Ｌ字金物 ろ		2.0tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 ち	1.0tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 へ	Ｔ字金物 Ｖ字金物 は
	厚さ3cm以上×幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛	1.5tホールダウン 金　物 と		Ｔ字金物・Ｖ字金物 は		2.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 り	1.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 と	羽子板ボルト 短ざく金物 （ｽｸﾘｭｰ釘なし） に
	厚さ4.5cm以上の幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛	1.5tホールダウン 金　物 と		羽子板ボルト・短ざく金物 （スクリュー釘なし） に		1.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物×２個 ぬ	2.0tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 ち	1.5tﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ 金　物 と

特記　：　使用金物類は、日本住宅・木材技術センターのＺ金物相当品とする事。
特記　：　詳細は、(財)日本住宅・木材技術センター発行の『木造住宅用接合金物の使い方』を参照する事。

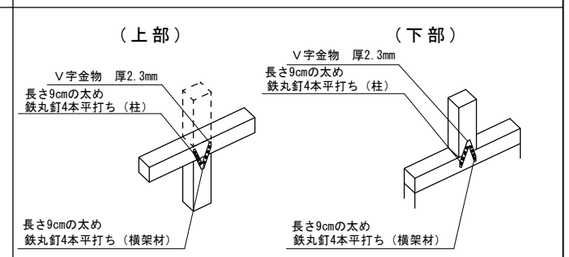
い



ろ

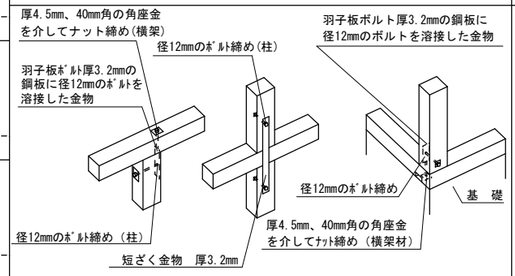


は

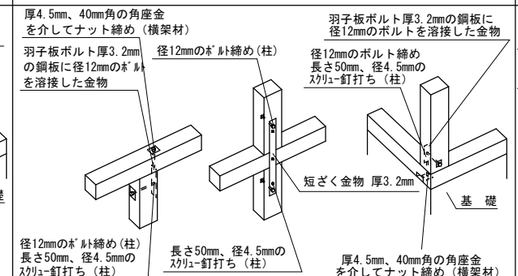


※上記のＶ金物に替えて、スリムプレート(CP-T相当)使用も可

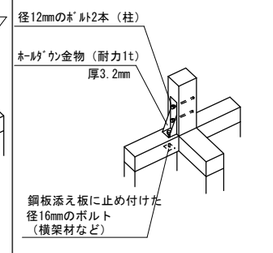
に



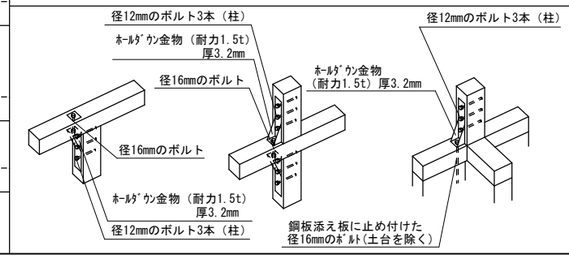
ほ



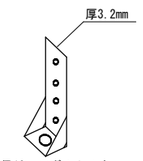
へ



と

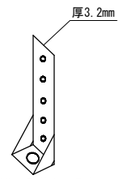


ち



※接合方法は（と）に準ずる

り



※接合方法は（と）に準ずる

ぬ

（と）を２個
使ったもの

基礎の種類
（告示１３４７号１項）

	地耐力 (kN/㎡)	構造形式
使用する基礎の種類	２０未満	基礎杭を用いた構造
	２０以上３０未満	基礎杭を用いた構造
		べた基礎
	● ３０以上	基礎杭を用いた構造
		べた基礎
		布基礎

特記・基礎の種類は、地耐力に応じて上記より選択すること
・各基礎の構造基準は右表の通りとする

注意
施工者は基礎工事着工前に地盤調査を行い、設計採用地耐力が確保できている事を施工者の責任において確認の上工事監理者に報告のこと。工事監理者は、工事施工者の報告に基づいて設計採用基礎方式で施工が適当か判断を行う。

基礎杭を用いた構造
（告示１３４７号２項）

耐力上安全に基礎杭の上部を支えるよう配置すること

(1)場所打ちコンクリート杭

・主筋には異形鉄筋を6本以上用い、かつ帯筋と緊結
・主筋の断面積の合計が杭断面積の0.4%以上

(2)高強度プレストレスコンクリート杭

・JIS A5337-1995に適合するもの、また、同等以上

(3)遠心力鉄筋コンクリート杭

・JIS A5310-1995に適合するもの、また、同等以上

(4)鋼管杭

・杭の肉厚は6mm以上、かつ、杭の直径の100m分の１以上
・杭の肉厚は6mm以上、かつ、杭の直径の100m分の１以上

※注　基礎杭を用いた構造とは基礎杭の上部に、べた基礎、布基礎、又はその他の構造体を築造する物をいう

べた基礎
（告示１３４７号３項）

1　一体の鉄筋コンクリート造とする（但し、地盤の長期許容応力度が70kN/㎡以上で、密実な砂質地盤その他著しい不同沈下などの生じる恐れのいない地盤にあり、基礎に損所を生じる恐れのない地盤にあり、基礎に損所を生じる恐れが無い場合は無筋コンクリート造とすることができる）

2　基礎の立上がり部分、高さ＝地上部分で30cm以上、厚さ＝12cm以上、基礎底盤の厚さ＝15cm以上

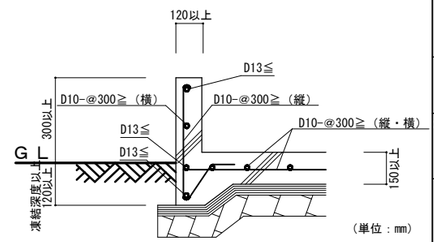
3　基礎の根入れ深さ＝12cm以上かつ凍結深度以上（但し、基礎の底部を雨水などの影響を受ける恐れのない密実で良好な地盤に達したものとした場合はこの限りでない）盛土をした場合はその分根入れを深くする

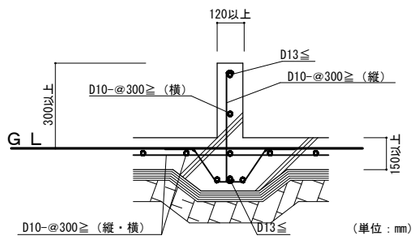
4　基礎を鉄筋コンクリート造とする場合

・立ち上り部分の主筋として、径12mm以上の異形鉄筋を立ち上がり部分の上端及び立上がり部分の下部の底盤にそれぞれ１本以上配置し、補強筋と緊結する

・立上がり部分の補強筋は径9mm以上の鉄筋を30cm以下の間隔で縦に配置。底盤の補強筋は径9mm以上の鉄筋を30cm以下の間隔で縦横に配置

・換気口を設ける場合はその周辺に径9mm以上の補強筋を配置



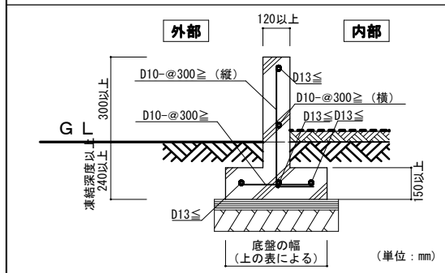


布基礎
（告示１３４７号４項）

1　べた基礎と同じ構造。但し根入れ深さ＝24cm以上、底盤の厚さ＝15cm以上
2　底盤の幅（基礎杭を用いた場合は下表の限りではない）

地耐力 (kN/㎡)	底盤の幅(cm) 木造又は鉄骨造 平屋建て	木造又は鉄骨造 ２階建て	その他の建築物
● 30以上50未満	３０	４５	６０
50以上70未満	２４	３６	４５
70以上	１８	２４	３０

3　鉄筋コンクリート造で底盤の幅が24cm超の場合、底盤に補強筋として径9mm以上、鉄筋を30cm以下の間隔で配置、底盤両端部の径9mm以上の鉄筋と緊結



工事名	株式会社はが建築社芳賀建築設計事務所 一級建築士事務所　埼玉県知事登録(10)第564号	管理者 芳賀　康三 一級建築士 登録第88273号	設計者 林　弘直 二級建築士 登録第27636号	担当者 林　弘直 二級建築士 登録第27636号	図面名	図面No.
あらぐさ福祉会様 第３クローバーハウス新築工事設計図					接合金物・基礎配筋標準図	K-6
備考	HOMEPAGE：WWW.HAGAKEN.COM　EMAIL：info@hagaken.com TEL 048-722-6081　FAX 048-722-6082	日付 2020.02.22	日付 2020.02.22	日付 2020.02.22	縮尺　NO SCALE	